

もし身近で**災害**が起こったらどう動く？

# 災害発生時に 看護師として できること



災害はいつ、どこで起こるかわかりません。

いざというとき、看護師には何ができるのでしょうか。

災害の基本知識から、具体的な災害ごとの対応のポイントまでしっかりお伝えします！

地震

水害

★  
マスギャザリング  
による  
集団災害

火災



【編集】小池伸享 こいけ・のぶゆき

前橋赤十字病院 看護部 看護師長、  
救急看護認定看護師、特定看護師

前橋赤十字病院にて臨床経験を積み、2008年に救急看護認定看護師認定後、群馬県立県民健康科学大学大学院看護学研究科にて看護教育学を専攻。その後、富山大学医学部大学院にて危機管理医学を専攻、博士号(医学)を取得。2015～2017年にかけて、日本赤十字九州国際看護大学にて救急看護認定看護師教育および学部教育に携わる。同3年間にJICAの教育支援として、インドネシア共和国の臨床看護師に対するICU教育プログラムの作成と支援を行った。

# 災害対策は、静穏期といわれる “今”の準備・備えが重要

小池伸享

わが国における自然災害の発生とそれによる被害は増大傾向にあり、そのなかでも阪神・淡路大震災や東日本大震災、令和6年能登半島地震などにおける被害は大規模なものとなりました。また2025年1月1日時点では、「南海トラフにおいてマグニチュード8～9クラスの地震が今後30年以内に発生する確率は80%程度である」と政府が評価しているほか<sup>1</sup>、気候変動に起因した大雨による災害も増加しており<sup>2</sup>、**いつどこで大規模災害が起こるかは誰も予測がつかない状況**であるといえます。

そのため、災害が発生した際の所属施設における対応はもちろんですが、「支援者・被災者のどちらになっても**看護師としてその場でできることは何なのか?**」という危機意識を、日々高めておかねばならないと痛感します。

多様な形で被害を生み出す災害に対し、われわれ看護師に求められる役割は**転換期を迎えています**。多様化する災害にすみやかに対処するには、また、過去の教訓から得られたことを活かし事態に対応するためには、**災害医療を学び**、災害看護をどのフェーズにおいても実践できるよう**日々の臨床における思考・技術を向上させる**ことが必要です。そのことが、いざというときにつながるのです。

〈引用文献〉

1. 地震調査研究推進本部 地震調査委員会：長期評価による地震発生確率値の更新について(令和7年1月15日). [https://www.static.jishin.go.jp/resource/evaluation/long\\_term\\_evaluation/updates/prob2025.pdf](https://www.static.jishin.go.jp/resource/evaluation/long_term_evaluation/updates/prob2025.pdf)(2025.5.20アクセス)
2. 国土交通省編：第2節 地球環境・自然災害に関する予測. 国土交通白書2020. <https://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/r01/hakusho/r02/html/n1221000.html>(2025.5.20アクセス)

## ( CONTENTS )

### PART 1 p.16

#### 「災害を知る」ことが災害看護の第一歩

- p.16 医療にとって「災害」とは?
- p.16 災害の原因による分類(自然災害と人為災害)
- p.18 災害の規模による分類(広域災害と局地災害)

### PART 2 p.19

#### あらゆる災害に共通する、看護師の行動原則

- p.19 多数傷病者への対応の原則、CSCATTを活用する
- p.23 高まる感染症のリスクに注意し、対策する
- p.24 暑い時期は熱中症への対策・対応を万全にする
- p.26 インフラが確保できない状況にも対応する

### PART 3 p.28

#### それぞれの災害で看護師に求められること

- p.28 自然災害発生時に看護師に求められること
- p.29 巨大地震発生時に看護師に求められること
- p.31 水害発生時に看護師に求められること
- p.33 人為災害発生時に看護師に求められること
- p.34 マスギャザリングによる集団災害発生時に看護師に求められること
- p.36 大火災発生時に看護師に求められること